

当院の統合医療ストラテジー

IVF 大阪クリニック 井田 守

ここ数年体外受精における妊娠率、生産率は徐々に減少している。この理由は治療技術が低下しているからではなく、女性患者が高齢化しているからに他ならない。一般に女性年齢が上昇するにつれ卵子は老化する。不妊治療のストラテジーとしては卵子、特に細胞質の老化を食い止めることが目標となる。そのひとつが補助治療による胚質の改善である。L-カルニチンは遊離脂肪酸をその燃焼の場であるミトコンドリアに運び、ミトコンドリアの膜を安定化し、アポトーシスを抑制する。体内の活性酸素を低下させ、胚質を改善させる。メラトニンは松果体から分泌されるホルモンのひとつで、不眠治療や時差の解消にも利用される。またラジカルスカベンジャーとして働き抗酸化作用を有し、卵胞内で酸化ストレスを抑制し、胚質を改善する。低出力レーザー治療（LLLT）は卵巣の血液灌流の改善による卵胞発育の促進、卵子のミトコンドリア活性の向上による胚質の向上、さらに子宮内膜の血管新生促進、子宮内膜の胚受け入れ時の免疫調節などの作用による妊娠率の向上が期待される。今回の我々の検討でこれらの補助治療の有用性が再確認された。さらに補助治療を有効に組み合わせた統合医療プログラムの有用性も認められており今後さらに症例数を増してエビデンスを築いて行きたいと考えている。